



THE  
ミズホ  
ONLINE

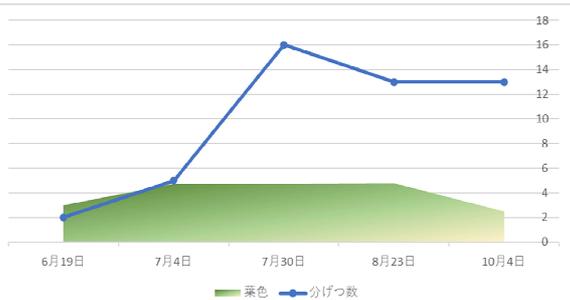
# Mリンでイモチ病回避！ 収穫できたのはMリン区だけ



葉イモチで抑え、穂イモチにはならず



無事に収穫



稲の葉色と分けつ数の推移

岐阜県高山市で行っているミズホ試験水田での結果をご報告します。

試験水田の1つでは「縁結び」という品種の米を栽培しています。縁結びは「イモチ病に強い」という特性を持つ品種ですが、山間部特有の、谷間で霧や露が付きやすい田に植えているため、条件によってはイモチ病になってしまいます。試験を行うに至ったのも、“イモチ病が蔓延し収穫がままならないので何とかならないか”ということがきっかけです。

2024年の栽培では、下表のようにMリンPKマグを適時追肥して葉や茎を硬く作ることを意識しました。

2024年の梅雨は比較的高温でありつつ、雨もしっかり降り、稲が軟弱に伸びやすい天候条件でした。

伸びやすい期間にリン酸を効かせると、細胞分裂を促進させるので、細胞数を増やしながらか大きくすることができます。これは窒素優先型の成長で見られる“細胞を肥大させて大きくする”のとは異なり、病気が入りにくい稲体となります。

登熟期の秋は、秋雨前線こそ活発ではありませんでしたが、昼は35℃、夜は20℃といった寒暖差のある気温が続き、霧と夜露で常に濡れている状態となりました。しかし、昼の気温の高さからイモチ病が広がりやすい条件となりました。

最終的に、Mリン区は葉イモチは付いたものの、穂イモチになることはなく、無事に収穫することができました。ところが、Mリン区以外では穂イモチが蔓延し、ほぼ収穫はできませんでした。改めて、稲を硬く作ることの大切さを実感しました。

天候	日にち (2024)	作業	追肥 (10aあたり)	
梅雨	6/19	田植え	元肥	有機窒素肥料
梅雨 7/25まで	7/4		調節肥	MリンPKマグ 15kg
高温 (35℃)	7/30		穂肥	MリンPKマグ 15kg
高温 (35℃)	8/23	穂揃い	実肥	MリンPKマグ 7kg
イモチ病の気配あり				
寒暖差大			実肥	空リン 20倍液 1ℓドローン散布
	10/18	収穫		



株式会社 ミズホ

〒466-0807 名古屋市昭和区山花町64-1

TEL: 052-763-4171 FAX: 052-761-3771

Mail [bio@mizuho.to](mailto:bio@mizuho.to)



● 資材紹介 ●



お知らせ：Mリンのミズホでは皆さまの栽培投稿を募集しています。QRから投稿下さい。